

グローバル COE 統合物質科学共催国際シンポジウム報告書

大学院理学研究科 竹腰 清乃理

研究集会名：日仏固体 NMR ワークショップ

場 所：京都大学理学部セミナーハウス

日 時：2010年5月12日-14日

参 加 者：本学理学・工学・農学研究科の学部生、大学院生、博士研究員、教員、
他大学（東大・阪大・千大・福大・九大）の大学院学生、教員、
企業研究者

参加者総数：96名

内 容：

非晶質固体での分子構造決定の方法として用いられている固体高分解能NMR法の方法は年々進化しており、近年ではそのターゲットをこれまでの主流であった生体分子・有機分子から無機非晶質固体などに広がっている。従って、固体NMRを学ぼうとする初心の学生達・企業研究者にとって基本的な概念・理論・方法を包括的・集中的に学ぶことは意義があると考え、本ワークショップを企画した。本ワークショップでは、主に固体NMRを始めたばかりの初心者を対象に固体NMRの基礎を約1日半で講義し、半日の実習を行い、3日目に最新の応用を含めた講義・講演を行った。講義・講演はアルミやホウ素などの四極子核の高分解能NMR法であるMQMAS法やSTMAS法の研究の第一人者であるLille大のAmoureux教授や本学の教員、NMRメーカーの技術者にお願いし、バラエティにとんだ切り口を提供できた。参加者は本学の学生・若手研究員だけでなく、半数程度が企業の若手研究者や他大学の学生が参加し、若い研究者同士の交流も行われた。このように本シンポジウムでは GCOE の事業として相応しい成果があがったと考えている。

